

神戸長田ふくろうの杜 3周年記念大会



社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会
〈発行〉
特別養護老人ホーム
淡路 ふくろうの郷
広報委員会
〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページリニューアルしました。順次更新していきますので、よろしくお願ひ致します。



3周年記念おめでとう!

11月25日午後、長田区文化センター別館ピレホールにて神戸長田ふくろうの杜3周年記念大会が開催されました。3年前の開所から、募金運動で協力をいただいた団体を中心に見学の問い合わせを多数いただいていたが、新型コロナ感染防止のため多くの団体をお断りしてきました。新型コロナも終息したわけではありませんが、5類に変更となり日常を取り戻している中で、3年間の歩みを皆様に報告する場を設けるために開催しました。当日は利用者や職員なども含め約200名の参加者に来場していただきました。来賓には、地域の細田神楽まちづくり協議会やふれあいまちづくり協議会を始め、長田区社協など地域でかわりのある方にもお越

一面にあるように、神戸長田ふくろうの杜開所3周年記念大会が開催されました。神戸事業所は神戸市長田区にあり、阪神淡路大震災で大きな被害を受けた地域です。そのためか地域の結束は固いです。まちづくり協議会さんや長田区社協さんから「こども食堂やりませんか」と声をかけていただきました。3年たって、開設当初からの夢に近づくことができそうです。

しいいただき、関心の高まりを感じました。お礼の連絡をすると「利用者主体の報告会でとてもよかったです。」「日頃の利用者との関係が見え、生き生きと通っておられる様子が分かりました。」とうれしい言葉をいただきました。前半は神戸長田ふくろうの杜と神戸平野ふくろうの樹を合わせ7事業の報告を行いました。職員が報告するだけでなく、利用者が自ら感想や仕事の内容など生の声をお届けすることができました。後半は、庄崎隆さんふくろうっこの子どものパフォーマンズやろう和太鼓集団「鼓神」による和太鼓、三田宏美さんによるサインダンスで盛り上げていただきました。神戸長田ふくろうの杜は、多くの方の力のおかげでできた施設です。

これから聴覚障害者福祉の拠点として、地域の拠り所となれるように取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

(神戸長田ふくろうの杜施設長 眞木崇江)



ユニットリーダー研修に参加して

9月19日から22日までの4日間、大阪堺市にある特別養護老人ホームゆとりとりあいで研修を行ってきました。

他施設での研修は久しぶりでとても緊張していましたが、理事長をはじめ副施設長、担当課長はとても優しくまた研修仲間ともすぐ打ち解け、心穏やかに研修を受けることが出来ました。ユニット見学の際も入

居者さまや職員の皆さまから気軽に話していただき、ずっと黙って座ったまま研修を受けることがなくありがたかったです。自施設と違うことが多く「何か質問や聞きたいことはないですか」との問いに色々質問させていただきあつという間に時間が過ぎていきました。毎日、研修の最後には各ユニットリーダーの方と話せる時間もありません。

研修最終日、研修を終えそれをもとに自施設で自分がどのように行動するのかを発表しました。事前に時間を割いて下さり、相談にもたくさん協力していただきました。ハード面もソフト面も全く違うことで自分何ができるのかを最後まで不安に思っていた私に介護主任から「あなたが迷っていてどうするんですか、理念に添った支援を行い、先頭に立って背中を見せ続けてください。」との厳しい言葉を頂きました。

ふくろうの郷の職務形態は副主任がおりリーダーはそのサポートという位置づけであり、自分の出来ることは少ないかと思いますが「一人ひとりを大切に、共に生きる」の理念に添って学んできたことを生かし、仲間と一緒に入居者さまに楽しく穏やかに過ごして頂けるよう努力していきたいと思っています。

(生活援助員 月ユニットリーダー 中村久香)

リスクマネジメント研修に参加して

11月10日(金)に洲本市健康福祉館にてリスクマネジメントの研修会がありました。しきしま法律事務所の藤井伊久雄弁護士による過去におこった実際の裁判事例を基にした講義がありました。事故に対しどのように対応をしたかの説明や判決の結果の報告がありました。裁判の結果を聞き、また何が大切かを説明されていました。計画をしっかりと立て家族さまに対し説明を行い納得して頂くこと、また家族さまとの関係も大切であると感じました。職員同士で計画の共有認識が必要であり、入居者さまの記録をしっかりととり入居者さまの状態が変わった時など直ぐに話し合いを行っていく必要があると思います。

他の施設からの事故報告や再発防止対策についての説明がありました。ふくろうの郷でも取り入れる所は取り入れていきたいと思っています。今後も入居者さまや家族さまにとって納得して頂けるように頑張っていきたいとおもいます。

(生活援助員 川崎弘統)

★クリスマスツリーの飾りつけをしました★



12月 ふくろうの暮らし

- 12/ 4(月)ふくろう理髪店
- 12/ 5(火)ふくろう大学演劇講座
- 12/ 6(水)誕生日会
- 12/13(水)ふくろう大学手話講座
- 12/16(土)ふくろう大学書道講座
- 12/19(火)ふくろう大学絵手紙講座
- 12/20(水)クリスマス会
- 12/22(金)ふくろう大学料理講座
- 12/27(水)もちつき、しめ縄作り
来年を占う漢字

ふくろう物語

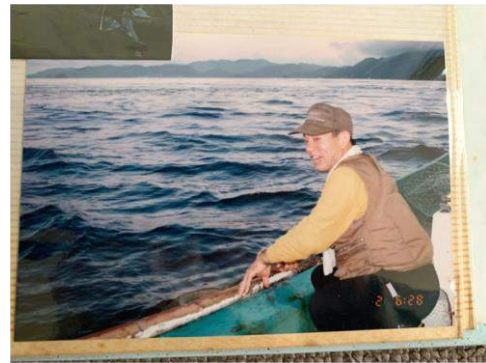
中村 大輔様

昭和12年3月15日、熊本県で生まれました。年齢は86歳です。

趣味は釣りや野球、プロレス観戦

家が不知火海に浮ぶ島、御所浦町で海に囲まれた生活をしていたこともあり、昔から釣りが好きだったそうです。ご自身で船を持っており、船釣りに出掛けることもありました。どんな魚が釣れたのか大輔さまに尋ねたところ、「鯛(タイ)、鰯(ブリ)、他にも色々いっぱい釣ってたよ」と教えてくださいました。また他にも、野球やプロレスの観戦が好きで、それを観るために給料の3倍もするビデオデッキを買ってきたこともあったそうです。仕事は初め洋裁をしていましたが、そのままでは収入面で生活

◀ 2000年釣りの最中



が大変だったことから3年ほどで内装工の仕事に転職したそうです。内装工を始めたのが20歳ごろで70歳まで続けられていたとのこと、約50年間一生懸命に働かれました。仕事はとて大変で、朝早くに起きて仕事へ行き夜遅くに帰ってくる生活であったため、家族と会える時間も限られていました。そんな中でも合間を縫って家族と野球観戦や映画鑑賞に出かけたりされていたそう

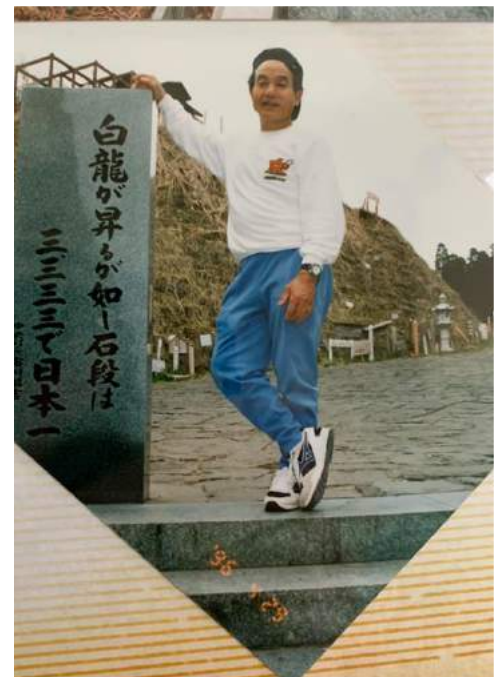
です。また40歳の時に車の免許を取得され、その車でキャンプに行ったこともあったようです。ある日突然新しい車やバイクを買ってきて奥様に怒られたこともあったとか。

一面も ふくろうの郷ではお話好き

ふくろうの郷には令和3年9月からショートステイで利用開始され、令和5年3月から長期入居されています。会話するのが好きなようで、誰かと話す時はいつもニコニコとされており、相手の話には「ああそうなんだ」と興味深そうに傾聴



▶ 2023年絵手紙講座にて



▲1996年マラソン大会に出ていた頃

している姿をよく見かけます。また行事にも積極的に参加していただき、皆の様子を見て楽しまれたり一緒にしてみたりとご自身のペースで楽しく過ごされています。

私が囲碁に誘った時も「やり方はわからないけどやってみる」と何度か相手をしてくださったことがあります。一手打つごとに「あここに置いたらいいのかわ」 「次はどこに置こうか」と楽しそうに遊んでくださり私も嬉しく思いました。

今回、ふくろう物語を書くにあたって大輔さまや息子さまからお話を聞かせていただき趣味のことや仕事のことと色々知ることができました。特に釣りのことや内装工のことは大輔さま自身にとっても印象深い出来事のように満面の笑みで話してくださいました。今後、日常会話や行事の中でも釣りの話題を入れたり等して、大輔さまにより一層会話を楽しんでいただけるように支援していけたらと思います。

(生活援助員 篠倉拓己)

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

第6回社会生活教室

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

ろう者

昔の生活・今の生活

今回は「聴覚障害者の昔と今」というテーマで兵聴協理事の仲井正氏にお話をいただきました。

仲井氏は聾学校や家族、地域からの偏見、差別から聞こえる人に対して不信任感、敵視していましたが、手話通訳者の存在に衝撃を受け、以来、ろう者への理解や手話を広めるためろう運動を続けています。ろう者だけでなく、手話に関わる聞こえる人たちの繋がりもあって、ろう者の生活が良くなり、法律や制度の改正につながっている。これからも若い人たちにつなげたいとの思いを話されました。講師と同世代の参加者から

は、昔のろう学校の経験に共感されたり、手話通訳が付くのが当たり前の若い世代も、最近の至り尽くせりの情報保障がある卒業式には驚きの様子でした。

今後の課題についての質問もあり、全国的に当事者団体に入会する人の減少がある。過去の運動で今の生活が築かれたことを知ってもらい、みんな手を持って頑張りましょうと結びました。(瀬田)

（瀬田）

手話奉仕員養成講座集中講座「聴覚障害とは」

ろう学校での手話の禁止・体罰に衝撃

手話奉仕員養成講座集中講座は「聴覚障害とは」というテーマで兵聴協の仲井正氏から、また淡路のセンター設立の経緯をセンターの吉川相談員よりお話ししました。淡路島内4会場から18名の参加でした。

一番印象に残ったことは聾学校時代のお話です。手話が禁止され、手話を使うと体罰や制裁があったという話は衝撃でした。家族や周囲からも心無い言葉をかけられ敵視するようになったこと、そんな状況の中でも手話通訳者との出会いで考え方が180度代わったこと。聴覚障害者に対する理解や関心も高まって行ってくれる未来になるといいなと感じました。

(南あわじ R・N)



▲講師の経験談にうなづく参加者

**受講者の感想
(一部抜粋)**

障害とは、その本人にあるのではなく社会の側にあるということを知ることがあります。今回のお話を聞き、その言葉をより実感しました (南あわじ 昼 Y・S)

教育の在り方がいかにその後の人生を左右するか、そのことが一番胸に刺さりました。その時代にあったと思われた教育でも、健常者に主導され、決められるとは理不尽で残念です。(南あわじ S・K)



聾学校の教育について知り悲しく思いました。今では考えられないような体罰があり、子供は耐え続けたことです。小さな時に受けた傷は絶対に忘れることはできないと思います。仲井さんが、辛い経験を乗り越え、今まで色々な活動を通して多くの仲間を作り繋がっていることを知りました。(南あわじ 昼 N・T)

情報を得られない、危険な状態に気づかない、これまで受けられるのが当たり前だと思っていた「教育」がそうじゃないんだとショックでした。職場にろう者が来たとき、「手話ができたならなあ」と思い通わせてもらっています。「手話ではありません」の看板はだせませんが、「筆談と手話ちよっと」から始めてみます。

(南あわじ 昼 S・K)

吉川さんからは淡路の聴覚障害者センターの発足、活動等、またふくろうの郷建設の経緯や実際に淡路に住んでおられる方の実際の支援のお話を聞いて、自分も病院勤務なので、聴覚障害者が入院されてこられたら少しでも不安やコミュニケーション面で支援できるように手話頑張ります。

(南あわじ Y・K)

避難・消火訓練を実施しました

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



11月13日(月)午後1時45分から、中川原地域ふれあいセンターにて地域の方・利用者・職員・洲本市各40名が館内にて火災を想定した避難及び消火訓練を実施しました。
まず、当センター厨房室で出火から利用者・職員が「火事だ」と気づき、利用者の皆さんや職員に知らせます。各部署から職員が数名消火器をもって駆け付け、初期消火を試みました。消せないと判断し、消防署へ連絡、避難誘導を行いました。

この度は、初めて中川原地域消防団の方々にもご参加いただくことができました。その後、消防団の方のご指導いただきながらおのころの家利用者さまが消火訓練をしました。参加した人は「実際に火災が起ったときはできる範囲で消火活動に協力し、被害を最小限にしたいと思う」と話されました。来年3月に自然地震避難訓練を行なう予定です。



デイ、おのころの家利用者が煙を吸わないようにマスク、ハンカチ等を利用して口を押さえ安全に誘導します。



(防災担当 橋詰)



レク活動 「クリスマスツリー飾り」

11月27日(月)、月1回小林先生が講師のレク活動を、デイサービス・おのころの家利用者さまも楽しみにしておられます。

今回は大きな松ぼっくりに飾りをつけてクリスマスツリーを作りました。どこから見ても飾りが見えるように工夫されたり、「帰って玄関に置いて」と笑顔で話されていました。

(高木)

神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836 電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

第19回兵庫県聴覚障害者文化祭に参加しました

10月28日(土) 灘区民ホールの5階マリーナホールと2階の兵庫県立聴覚障害者情報センターで開催された兵庫県聴覚障害者文化祭に参加しました。

新型コロナウイルスの関係で3年ぶりの開催です。コロナ蔓延前に比べると参加ブースの数も半数以下と少し寂しい感がありました。神戸長田ふくろうの杜としては、杜事業の中の相談支援事業所「ふくろう」が、2ヶ月に1回開いている「相談連絡会」の中で「福祉相談ブース」を設置しようと話が決まり、5階、マリーナホールでブース参加しました。お馴染みの「医療班」の隣にブースを配置していただき、相談連絡会に参加のメンバー(事業所)がそれぞれの事業所のビラや、相談を受けたらお応えできるように、それなりの資料を準備し、午前の

担当、午後の担当を決めて待機してました。しかし、午前に一人、午後一人のお尋ねがあっただけで、後は、並べたビラを持ち帰る人ばかり。少しばかり拍子抜け。隣の「医療」のブースは文化祭に参加の歴史も長く、血圧を測ってもらったり、何某かの相談をされたりと盛況のようでしたが、初めて参加の「福祉相談」ブースは、その状況を横眼で見ながら、事前宣伝が足りなかったと反省、状況が如実に表れていました。

それとは別に、文化祭実行委員会には「神戸長田ふくろうの杜」の紹介の時間を、舞台でのアトラクションの後にに入れてくれました。「神戸長田ふくろうの杜」の建設に至る経緯をパワーポイントを使ってお話ししました。兵庫区の神戸ろうあハウスからなぜ長田区に新施設を建てるに至ったのかということ。また、11月25日(土)の「3周年、記念行事」のPRもしました。思えば、杜が開所した以降、初めての文化祭です。

この3年間で長くもあり、短くもあり。言い尽くせぬ気持ちで、壇上から皆さんのお顔を見渡し、つくづく、建設運動への感謝の気持ちが湧いてきました。
(眞木崇江)

初めての外出レクを満喫

神戸平野ふくろうの樹では開所から2年を経過しましたが、新型コロナウイルスの影響もありみんなそろっての外出レクは行うことができませんでした。

10月29日(日)に「南京町と本の森の散策」に入居者7名で出かけました。

南京町では、肉まんや飲茶などを露店で食べ歩きを行いました。本場の雰囲気を感じながらおいしい食事を楽しみました。お腹が膨れた後は、元町から東遊園地まで散策しました。久しぶりに来たという方は、



↑南京町で中国の雰囲気を感じながら集合写真



「新しい店ばかり、きれいなっていい！」と驚かれました。

たくさん歩いた後は、本の森で読書の時間でした。子供向けの本ばかりですが、かわいい絵や物語に集中されました。その後は、近くのカフェで一休みして帰りました。

施設の中の行事だけではなく、外の空気を感じながら楽しむ行事も今後も考えていきたいです。生き生きとした暮らしを支援できるように努めます。